

補正予算第1号の概要についてご説明申し上げます。

第2条の業務の予定量につきましては、建設改良事業の第4次拡張事業費に6,250万円を追加し、3億4,300万円といたすものでございます。これは今年度の石綿セメント管更新事業の国庫補助金額が要望額にさらに50%上乘せて内示いただいたもので、この内示を活用し、事業の早期完成を図るものでございます。

配水施設整備費につきましては、山形県事業に伴う水道管の布設替工事費として1,950万円を追加し、7,650万円といたすものでございます。

第3条、資本的収入及び支出でございますが、第1款資本的収入では、このたびの補正の財源といたしまして、企業債、国庫補助金、その他の補償金などを合わせて6,450万円を増額し、次のページの支出の第1款資本的支出では建設改良費に8,200万円を増額いたすもので、差し引き不足する財源1,750万円については過年度分損益勘定留保資金をもって補てんいたすものでございます。

第4条につきましては、老朽管更新事業債の限度額を1億1,250万円に改めるものでございます。

次に、詳細につきまして実施計画書よりご説明申し上げますので、水道3ページをごらんください。資本的収入及び支出でございますが、収入の第1款資本的収入に6,450万円を増額し、4億1,438万7,000円といたすものでございます。

内訳といたしまして、石綿セメント管更新事業に係る1項企業債に3,750万円、及び3項国庫補助金に1,250万円をそれぞれ増額し、4項その他の補償金につきましては、山形県施行の豊里地区経営体育成基盤事業及び道路改築事業（国道）一般国道287号線の工事に伴いまして配給水管が支障となるため、移設依頼があったもので、配給水管布設替補償費として1,450万

円を山形県からご負担いただくものでございます。

次に、水道4ページ、支出でございますが、1款資本的支出に8,200万円を増額し、6億8,001万6,000円といたすものでございます。

内容といたしまして、1項建設改良費につきましては、2目第4次拡張費に石綿セメント管更新事業に係る工事請負費及び設計業務委託料合わせて6,250万円を増額いたすもので、追加工事箇所として中央地区において3工区、1,215メートルを予定してるところでございます。4目配水施設整備費については、山形県から依頼されております2件の配給水管布設替補償工事分のほかに、豊里地区基盤事業の補償工事に付随して配水管の口径を50ミリから75ミリに変更するため、補償対象外工事分を含め工事請負費及び設計業務委託料を合わせて1,950万円を増額いたすものでございます。

以上でございます。よろしくご審査賜りますようお願い申し上げます。

## 平成18年度長井市各会計補正予算案 に関する総括質疑

○**渋谷佐輔委員長** 概要の説明が終わりました。これより質疑を行います。

ここで総括質疑の発言通告がありますので、順次ご指名いたします。

### 鈴木小市委員の総括質疑

○**渋谷佐輔委員長** 順位1番、議席番号15番、鈴木小市委員。

○**15番 鈴木小市委員** 私が通告しております

のは2点であります。

その1点は、長井市内の小・中学校の耐震調査についてであります。私がある新聞を読んでいますと、太い文字で「学校耐震2万6,700棟未診断」という見出し文面を目にしたとき、私の脳裏に浮かんだのは、長井市内の学校はどうなんだろうと、長井小学校の第2校舎は平成13年度に耐震補強の大規模改造工事をしていただいたけれども、その後、残された校舎はどうなっているのだろう、そして他の学校は、そして最近全国各地域で地震が勃発しており、心配になり質問をするものです。

まず、管理課長にお尋ねいたします。長井市内の学校で1981年以前に建設された学校はどこどこですか、お尋ねいたします。

○**渋谷佐輔委員長** 梅津敏昭管理課長。

○**梅津敏昭管理課長** おはようございます。鈴木小市委員の質問にお答えしたいと思います。

1981年以前に建設された学校ということでございますが、長井小学校の第1校舎、それから第2校舎、第3校舎、それに体育館、それから致芳小学校の校舎、体育館、それから西根小学校の体育館、以上でございます。

○**渋谷佐輔委員長** 15番、鈴木小市委員。

○**15番 鈴木小市委員** なぜ1981年以前建設された学校をお聞きしたかと申しますと、耐震基準が設けられたのが1981年だからなのです。そうしますと、長井市には長井小学校の第1校舎、第2校舎、第3校舎、体育館、致芳小学校の校舎と体育館、それから西根小学校の体育館というようなことをお聞きいたしましたけれども、長井小学校の第2校舎につきましては、先ほどちょっとお話しさせていただきましたけれども、耐震構造計画に基づいて大規模工事をしていただいているということでもありますから、第2校舎を除けば6校舎、体育館というような形のものになるということですよ。

それで、このような学校について県でも調査

してありまして、調査によりますと1981年以前に建てられた小・中学校施設の耐震診断実施率は65%、1982年以降に建てられた施設を含めて耐震化されている施設の割合は45%で、全国平均を下回っているとのことでございます。そして、耐震診断が行われていない108棟があるのは長井、南陽両市と山辺、中山、河北、朝日、小国、白鷹、飯豊の7町であり、このうち山辺、河北、朝日、小国の4町は2007年度以降に耐震診断を実施する予定であるというようなことでもあります。中山町も対象施設の改築を検討しているとのことです。一方、飯豊町は小・中学校の統廃合の構想がことし10月に決まってから検討されるとお聞きしておりますし、南陽市も統廃合の計画策定後に耐震診断について考える方針であるようであり、これらの市町は理由がはっきりしていて、だれもが納得いくものですが、白鷹町と特に長井市は財政上の問題で耐震化が進まないという現状がお話しされています。非常に残念だなというふうに思っております。

このようなことを踏まえて、教育長はどのような対策を考えておられるのかお尋ねいたします。

○**渋谷佐輔委員長** 大滝昌利教育長。

○**大滝昌利教育長** 今、鈴木委員ご指摘のとおりですけれども、まず、今年度に今の管理課長の方からあった学校について優先度調査を行いたいと、その後で財政課の方ともいろいろ協議しながら耐震度、または耐震化に向けた策定をしていきたいというふうに考えています。

○**渋谷佐輔委員長** 15番、鈴木小市委員。

○**15番 鈴木小市委員** 今、今年度に調査を行うと、そして、財政課と協議しながらというようにお話でありますけれども、その中でも一番具体的に古い校舎からお尋ねいたしますが、長井小学校の第1校舎、体育館、第3校舎についてどういようにお考えですか、お尋ねいたします。

+

- 渋谷佐輔委員長** 大滝昌利教育長。
- 大滝昌利教育長** 今年度行うのは優先度調査です。その調査結果を見ながら、いろいろ要望もありますので、長井小学校の第3校舎についてはいつということじゃなくて、耐震度調査をし、そして耐震化をするということでの庁内での話し合いをしながら、協議をしながら計画を策定していきたいというふうに思っているところです。
- 渋谷佐輔委員長** 15番、鈴木小市委員。
- 15番 鈴木小市委員** それでは、致芳小学校の校舎、体育館、西根小学校の体育館も同じご答弁ですか。
- 渋谷佐輔委員長** 大滝昌利教育長。
- 大滝昌利教育長** 同時平行はできないというふうに思いますので、その辺は優先順位を決めながらということになると考えています。
- 渋谷佐輔委員長** 15番、鈴木小市委員。
- 15番 鈴木小市委員** 優先順位を決めてからというようなことでございますけれども、まず、平成13年度に長井小学校の第2校舎を工事されたというようなことでありまして、ことしは18年度ですから、5年間何もなさらなかったというふうなことでですか。
- 渋谷佐輔委員長** 大滝昌利教育長。
- 大滝昌利教育長** 当時、平成13年度に改修した時点では、平成19年度耐震度調査、20年度耐震化という構想はあったんですが、さっきもご指摘ありましたけれども、それが財政的な理由で削除されているという状況があります。
- 教育委員会の方としては、事務事業シートの方で毎年予算要求はしているわけですが、やっぱり財政的な事情等も絡めながら今後の耐震化に向けて計画を策定していかなければならないというふうに考えています。
- 渋谷佐輔委員長** 15番、鈴木小市委員。
- 15番 鈴木小市委員** 教育長のお話ですと、県の調査でも特に長井市は財政上の問題で耐震

化が進まないという現状であると言われておりますが、教育長の答弁も財政上の関係でとなれば、答弁者に財政課長をちょっと私載せていなかったんですけども、委員長にお願いして財政課長にここでどのようなお考えなのかちょっとお聞きしたいと思いますけれども、お願いできますか。

- 渋谷佐輔委員長** 鈴木委員に申し上げます。答弁者の指名が、市長おられますので、市長から指名していただくように委員の方からお願いします。
- 15番 鈴木小市委員** じゃあ、市長お願いいたします。
- 渋谷佐輔委員長** 目黒栄樹市長。
- 目黒栄樹市長** ご要望ですので、財政課長から答弁させます。
- 渋谷佐輔委員長** 松本 弘財政課長。
- 松本 弘財政課長** お答えをいたします。

当市の場合、平成13年度以降の普通建設事業につきましては、平成12年度に策定いたしました「長井市の財政計画」をベースとして実施してきたところでございます。

この計画の策定時、長井小学校の大規模改修工事につきましては、平成13年度第2校舎を改修し、引き続き16年度に第3校舎の耐震調査を行った上で17年度に改修工事を実施するという予定になっておったことは、委員ご指摘のとおりでございます。

ただ、ご承知のとおりこの財政計画につきましては、必要に応じて数回の見直しをしてきたところでございますけれども、この見直しに際してこの耐震工事が今までいろいろと問題になってきたところでございますが、最終的には17年度までの計画期間内には実施されておられませんし、昨年度お示しをいたしました22年度までの「長井市の財政の中期展望」においても実施する見込みにはなってございません。

ただ、長井市の財政の中期展望では公債費負

担適正化計画とのかかわりもございまして、今後の普通建設事業費を標準財政規模のおおむね10%程度でやっていきたいというフレームを設けたところございまして、ただ、この10%のフレームでございまして、この10%の中に入ってくる個々の普通建設事業につきましては、各年度流動的に考えているところでございます。

したがって、今後実施が予定されている普通建設事業全体の中で、市内の小・中学校の耐震度調査であるとか耐震工事が最優先課題になるということであれば、それぞれの事業を再度見直しをしながら、今申し上げました標準財政規模のおおむね10%というフレームの中で調整をしていくことになるだろうと思っております。

こういうことから言えば、必ずしもこの耐震度調査ができないということは財政上の理由からだけというふうにはなりません、あくまでも長井市全体の普通建設事業といたしまして何を優先順位を上を持ってくるかということが総合的に判断されるべきものというふうに認識しているところでございます。

○**渋谷佐輔委員長** 15番、鈴木小市委員。

○**15番 鈴木小市委員** 急な答弁をどうもありがとうございました。

教育長、今お話しされたように、わかりましたけども、何か5年間に検討委員会で計画とか全然立てられていなかったんですか。

○**渋谷佐輔委員長** 大滝昌利教育長。

○**大滝昌利教育長** 全然やってません。

○**渋谷佐輔委員長** 15番、鈴木小市委員。

○**15番 鈴木小市委員** いやあ、私は今のお話をお聞きいたしまして、何と申しましょかね、5年間も計画も何もされていないというのは、今怒りを感じますよ、私は、教育長。何やってんですか、一体。まさに拱手傍観と言わざるを得ない、私は。その件について、どう思いますか。

○**渋谷佐輔委員長** 大滝昌利教育長。

○**大滝昌利教育長** さっきも申し上げましたけども、第3校舎の耐震化についての予算要求というのは毎年しているんですよ。教育委員会の内部でもその耐震化については話はしていますけれども、そういう検討委員会とか何かという立ち上げをして正式に検討したという経緯はございません。

○**渋谷佐輔委員長** 15番、鈴木小市委員。

○**15番 鈴木小市委員** だから非常に私は残念だと思ってるんですよ。その5年間の空白ですよ、はっきり申し上げて。そこに教育委員会でお話しされて、そして立ち上げる準備をすれば、18年度からでも耐震調査はできるはずですよ。その辺私、どう思いますか、教育長。

○**渋谷佐輔委員長** 大滝昌利教育長。

○**大滝昌利教育長** 全然動きがないというわけではなくて、いろんな会議の場でも話をしていますし、そういうことで長井小の第3校舎だけじゃなくて、さっきあったような長井市内の小学校についての耐震化については、いろいろ心を痛めながら何とかしたいというふうな方向での話し合いはしているところです。

○**渋谷佐輔委員長** 15番、鈴木小市委員。

○**15番 鈴木小市委員** 教育長のお話はね、お話だけであって、実施される行動はなっていないんですよ、私から見ますと。だからそのところ空白が5年間あると、そのところ私は非常に残念だなというふうに思ってるんですよ。そのところ教育委員会の会議等、あと学校長会でいろいろお話しされてると思いますよ、でもお話しされておっても、それだけで、そこからは進んでいないというふうなことなんですよ。だからそのところね、5年間何もやっていないという、さっき答弁したんじゃないですか。非常に私は残念ですよ、はっきり言って。その5年間はどう取り返しますか、取り返せますか、お聞きします。

○**渋谷佐輔委員長** 大滝昌利教育長。

○大滝昌利教育長 5年間をどう取り返すかということですが、私はやっぱり何かその間、耐震化に向けて何も動きがないということじゃなくて、正式な検討委員会という立ち上げはなかった、でもやはり急がなきゃならない問題ですので、今後、先ほども申しましたけども、今年度優先度調査をしながら、そしてここ数年かけながら、長井小だけの問題ではありませんので、そういうふうな整備計画というか、耐震化の計画をしていきたいというふうに考えています。

○渋谷佐輔委員長 15番、鈴木小市委員。

○15番 鈴木小市委員 それは今からということでしょ。だから私が言ってるのは5年間の空白ですよ。財政課のお話もお聞きしましたが、全然財政課にも上がってきてないというふうな状況なんです、5年間は、お話もないと。だから教育長の方で自主的に財政が厳しいから、まず何も手をこまねいておった方がいいんじゃないかというふうにとられるわけなんですよね。だからお金なくても計画とか検討とかできるのではなかったかなと、この5年間のうちに、そこを私は言いたいんですよ。その件に関してはどう思いますか。

○渋谷佐輔委員長 大滝昌利教育長。

○大滝昌利教育長 さっき財政課長の方からもありましたけども、計画はあったんですよ、財政計画の中で。だからその中で上げてはいますし、毎年事務事業シートに上げて予算要求もしていますので、何もしていないということではないなというふうに私は感じています。

○渋谷佐輔委員長 15番、鈴木小市委員。

○15番 鈴木小市委員 さっきは何もしてないというふうなことでしたので、まあ、それはそれでいいとして、教育長、思い出してくださいよ、1946年ですよ、昭和39年、マグニチュード7.5の東日本一帯を襲った新潟地震、本県にも被害が多くあり、特に庄内地方に集中したんで

すね。それで、中でも園児と保母合わせて29人が倒壊した建物の下敷きとなり、幼児3人が死亡したんです。鶴岡市の京田幼稚園なんですよ。悲惨な被害場所となったということをお聞きしたいです。それで、冷たくなって帰宅した子供を、余震が続き、揺れが激しくなるたびに、死んでる子供また押しつぶされるのはかわいそうだというようなことで、子供を抱いて外に出る母親の姿があったと聞いて、私もその言葉を今思い出しますよ。

そういうこと、本当に悲惨な出来事だということに思えば、その5年間の空白というのは私は非常に残念だなと、本当にその時間はもったいないと、私は思うんです。

そして、長井小学校の第3校舎には1学年の教室から4学年までの教室が今現在ありまして、約580人もの生徒が勉学に励んでいるというふうな状況だとお聞きしております。すると低学年が大体なんですよ。このような状況でありまして、もし今災害になれば、さっきお話したような、思い出されるような悲惨になれば、非常に私は心痛める問題だということなことで考えてましてお話しさせていただいておるんですよ。今まで、その5年間のあいてる時間というか、本当にもったいないなというふうに私は思います。

そして教育長はさっき5年間のうちに何もやってないというふうに言ったじゃないですか。さっき言いましたよ。だから私は今からでもその5年間の時間を取り戻してほしいなというふうにお話をさせていただいておるんです。ということは、早急にもいろいろ手を回して、計画とか検討委員会とかそんなのをつくって、今すぐ工事して改築してください、新築してくださいなんて私は言ってるんじゃないんですよ、その5年間の空白の時間をひとつ取り戻してほしいというふうな気持ちわかりましたか。わかりました。じゃあもう一回。

○**渋谷佐輔委員長** 大滝昌利教育長。

○**大滝昌利教育長** ちょっと誤解されて受け取られているようなところがあるなと思います。5年間何もやってないというのは、検討委員会的なものはやっていませんと、そのほかにはいろんなことで、いろんな部署で話し合いに持って行っていますし、そういう面では何もやってないということじゃありません。

空白期間というのは、まさにそうだと思いますし、そういう大惨事というのかな、大事故が起きては困りますので、やっぱり子供らが生活している場所ですので、それについての安全安心というのは行政の責任もありますから、そういう面できちんとした対応をこれから計画的にやっていくというような考え方でいます。

○**渋谷佐輔委員長** 15番、鈴木小市委員。

○**15番 鈴木小市委員** それでは、管理課長はどうお考えですか。

○**渋谷佐輔委員長** 梅津敏昭管理課長。

○**梅津敏昭管理課長** 先ほどから教育長申し上げてますように、18年に優先度調査をさせていただきたいというふうに思いますし、その後、その調査の結果によって、やっぱり計画的にできるだけ早い時期に正式な耐震診断、それから改修工事というようなことで計画を立てていきたいなというふうに今考えております。

○**渋谷佐輔委員長** 15番、鈴木小市委員。

○**15番 鈴木小市委員** それでは市長お尋ねいたします。

今までの質問、あと管理課長、教育長の答弁をお聞きになられていると思います。市長はこの件に関してどうお考えですか。窮余の一策でなく、お答え願います。

○**渋谷佐輔委員長** 目黒栄樹市長。

○**目黒栄樹市長** 鈴木委員も正確に誤解のないように教育長のお聞きいただきたいのは、検討委員会はしてますかということです。予算要求等いろんなことではしておりますが、小市委

員が言われる検討委員会というのを立ち上げたということではないということですよね、まず。

それからもう一つ、空白の5年間といいますけど、私はその5年間、責任者としてやってきて、まずやらなきゃいけないのは、とにかく財政再建をして、15年度、16年度は一番厳しかったわけですから、そこを乗り切らなかつたら、今、夕張市なんて新たに出てきましたけどもね、それはそういう状態で、普通建設事業さえもやっぱりストップさせていただかざるを得なかつたんですよ。やっぱりそれは財政をある程度立て直ししなければ具体的にやれるということにならないわけですから、それを優先してきたのが5年間だということもご理解をいただきたい。

もう一つ言わせていただければ、1981年、昭和56年以前に建ち上げたものというのはいっぱいあります。例えば市役所、昭和33年なんですよ。これを耐震度調査なんかしたら、イの一番にどおんと震度5強ぐらいで、市民の方もずっと毎日おいでになっている、職員もいるところが危ないのではないかとさえ言われておるわけです。こういうところもやっぱりしなければいけないのですよ。そして、そういったことを全体考えながら、できればやっぱり市役所なんかは西庁舎あたりにももらえないかなと、いろいろ手を尽くしたりいろいろやっていながら、合併でもしない限りは新しい庁舎なんかできませんし、また合併して新しい庁舎なんていうのも、それは優先順位は高いとは言われないうふうになりますし、いろんな面でこの耐震度に関してはやらなければならないことが山積みになってることは承知をしております。そうは言っても、夕張市のようにまたなつては困りますから、やっぱり標準財政規模の1割の中で何をやっていくかということ、そのときそのときに、議員の皆さんからもいろんな要望がありますからね、やっぱりそれをやっていかなきゃいけないし、ことし優先度調査をまずやって、

+

その中からまた検討委員会なら検討委員会を立ち上げて、あるいはこれは調整会議というのも庁内にありますから、そこで優先順位をある程度議論しながら、全体的にやっぱり優先度の高いものからやっていくというふうになろうと思っております。

○**渋谷佐輔委員長** 15番、鈴木小市委員。

○**15番 鈴木小市委員** 一つは、予算要求していれば今のような状況になってないんですよ。もうちょっと進んでるんですよ、はっきり言ってね。

あと、市長ね、私は何でこういうことをお話できるかと申しますと、私は平成7年の12月の定例会の予算総括に際しまして、「長井小学校が全面的に老朽化してきているというようなことで、全面的に考える検討委員会をつくって、平成12年あたりから徐々に工事がなされるような形のものをお考えいただきたい」というような質問をしているんですよ。

それに関して、答弁といたしまして、「教育委員会管理課がその任を持っているわけがございますので、その中で、当面県の方とも相談しながらこの改築計画あるいは新築計画を含めて検討してまいりたい」というふうに思っておりますという答弁をいただいておりますよ。このような質疑、提言をやはりもうちょっと重要視していただければ、今ごろは順調に改築、新築させていただこうなと悔やまれるわけなんですよね。それがいまだもって第2校舎のみ工事をしていただいているというようなこと自体、私は情けないなというふうに思っているんです。もちろん市にはいろいろな、耐震構造につきましてはたくさんあると思いますよ、心配な建物は。でも今お話ししたようなことを私はお話ししておりますから、なかなか残念だなというふうに思っております。

そして、やはり財政計画の中でというふうな形のものでお話ありましたけども、長井市に今

まで市長もおっしゃるとおり、道路もつくってありました道路を途中でストップしても財政計画やってきたんでしょ。それで、ある場所、道路拡幅工事、すばらしい道路になってる場所が長井にはあったんですよ。私はぶったまげましたよ、そこに行きましたら。そういうふうなことを、市長もどこかおわかりだと思いますけども、その辺どうお考えですか、市長は。

○**渋谷佐輔委員長** 目黒栄樹市長。

○**目黒栄樹市長** その平成7年に耐震度調査をされて、13年にやったやつだって、県の方としては財政再建後にどうですかと、はっきり当時の地方課からもあったんですよ。でもこれは私はその前の市長のあれではあっても、県との約束でもあるし、財政再建の最中だけでもここだけはまずというので、これはしたんですからね。そういうのをちゃんと、その公約は守ってそれはやってきたんですよ。

それから、16年度を越えれば少しずつやっぱり再開しようということ、優先度の高いところから、例えばダム関連であるとかいろんなものからやってきたことは、それはありますよ。それはやっぱり優先度の順位もあるし、国との、今のダムとの関係とかそういうこともあれば、それはやっぱりそういうふうにして、それぞれに地域の皆さんからも納得していただいているというふうに思います。

○**渋谷佐輔委員長** 15番、鈴木小市委員。

○**15番 鈴木小市委員** いや、市長のおっしゃるとおりのところもあるんです。でも私は最初から申し上げておりますように、大体のお話の内容わかると思いますけども、やはり13年度以降の予算要求もしないで5年間空白だったんじゃないかというふうなことをお話し申し上げて、それを取り返すためにはすぐにいろいろな計画とか検討をやってほしいというふうなことでお話しさせていただいておりますというふうなことでありまして、今、管理課長も教育長も市長も、

18年度から、ことしから優先度調査をしていただけというふうなお話ありましたから、それは私はそのようなことでひとつお願いしたいというふうに思っておりますけども、でもね、市長、急を要することではないかなというふうに私は思っておるんですよ。教育長もおっしゃるとおり、やはり急を要するというようなことでありまして、時の用には鼻をそげということわざがあるように、優先順位がどうなるかわかりませんが、下水道の工事の一環とか、例えば道路工事の一環とか、そういうものをおろして、先送りしてでも早急に対応してほしいなというふうに思っているんですけども、その辺はどうお考えですか、市長。

○**渋谷佐輔委員長** 目黒栄樹市長。

○**目黒栄樹市長** 政策は、基本的な政策の中で優先順位というか、少しずつ、一つずつやっていくためには、それは大いに議論をしてやっておりますし、それからこの間の庁議でも、教育長及び管理課長から強くやっぱりそういう問題が出されて、検討して議論はしてるんですよ。しかし、それは鈴木委員が市長になられたらどういう優先度、それがあるか知りませんが、私はダム関連なんか、22年までのうちにやっぱりやる時には、それはそっちをやらなければ機会を失うわけです。補助金こなくなっちゃうわけですよ。それから、遠藤武彦先生からも随分勧められた地域再生とか都市再生、やっぱり水洗化率がまだ65%だと、人口比で86%にするときに4割ちゃんと補助すると、あとの10%も交付税でやるというときに、やっぱり手を挙げなければ、これはそのときにやらなければもっと今度は補助率が下がるかもしれないし、できなくなるかもしれないという、そういうやっぱり判断をせざるを得ないわけです。そういう判断の結果、やっぱりその年その年の優先順位を、ようやく去年あたりから、ことしは島田議員からは褒めていただきましたけども、ようや

く少しずつやれるようになってきたじゃないかというふうになってきたわけですから、そういった中で、私は皆さんのご意見も聞きながらベターな方法をとっていきたいというふうに思っております。

○**渋谷佐輔委員長** 15番、鈴木小市委員。

○**15番 鈴木小市委員** 市長おっしゃるのはもったもなんですよ、はっきり申し上げてね。私だって市長の立場にあれば市長と同じなんです、考え方は。でもね、一つは水道事業所の入る道路がありますよね。あそこは拡幅なっているんですよ。あそこは例えばじゃあダム関係で拡幅されたのか、それともどのような優先順位でなされたんですか。

○**渋谷佐輔委員長** 目黒栄樹市長。

○**目黒栄樹市長** それぞれに地域の要望があり、去年あたりから少しずつやってきてるのは、それが出入りのとき水道事業所だってやっぱりあれはしなきゃいけない。それから、あそこのことまだ土地区画整理事業等もあり、往來がさらに大きくなると、それから非常に見えにくいと、危険だとかいうようなところがあり、そういうところを、それに限らずですよ、そこに限らず少しずつ、今一つずつやり始めてきたということだと思っております。

○**渋谷佐輔委員長** 15番、鈴木小市委員。

○**15番 鈴木小市委員** やっぱりあの場所に関しては、何であそこかなというふうな、周りの地区の方々もおられるんですよ。ただ、私はしていただいて悪いと言ってるんじゃないんですよ。いや、やっぱり優先順位を考えるならば、もうちょっと優先される場所があるんじゃないですかというふうなことをお話し申し上げただけであって、もう工事が終わったことに関しては申しませんが、やっぱり優先順位と考えるならば、市長のおっしゃるような考えならば、もうちょっと優先順位が高いところ、場所があったんじゃないかというふうに私はお話

+

を申し上げてるわけなんです。

だから先ほど申しましたように、やはりそういうふうな優先順位を考えれば、そういうふうなところじゃなくて、例えば一区間工事を先送りしてもやられるような気構えがございますかというようなこととお聞きしたというふうなことでありまして、その辺はどうお考えですか。

○**渋谷佐輔委員長** 目黒栄樹市長。

○**目黒栄樹市長** 地域の要望等については、よくお聞きをしながら、しかし、拡幅だけじゃなくて、例えば待避場所がいい場合には待避所をつくらせていただいたり、財政の中で要望を実現するような方法をいろいろ議論させていただきながら、やっぱり庁内でも調整会議をしながら今後ともやっていきたいというふうに思います。

ただ、おわかりいただきたいのは、地域再生事業とか土地再生事業なんていうのは、これから5年間でやろうということですから、そういうところはやっぱり、そう簡単に先送りにはできないんです、それは。一度手を挙げたら、やっぱり5年間でちゃんとやらなきゃいけない。それはご理解もいただく努力をしながら、皆さんもご理解をいただけるようにしたいと思っております。

○**渋谷佐輔委員長** 15番、鈴木小市委員。

○**15番 鈴木小市委員** 市長、長井小学校の児童、あのようによく育っている小学生を私見ますと、災害で失いたくないというふうなことなんですよね。ですから、早急に18年度に優先順位を考えるというような形のものをつくるというふうなことです。優先順位を上げていただいて、一番最初に優先して考えていただいて、まずお願いしたい。そしてそのようなことでありますと、もし災害が起きてても人災ととられるようなことになるようではうまいというふうなことで、最優先に考えるというふうなことでお願いしたいというふうに思っております。そしてまた、任期中に何とか検討

されまして、西置賜の中心校として、誇りと伝統ある長井小学校を災害から守っていただけますことを特にお願いしたいというふうに思います。市長、いかがですか。

○**渋谷佐輔委員長** 目黒栄樹市長。

○**目黒栄樹市長** 災害から子供を守るというのは、鈴木小市委員と全く同じです。それはそうしなければいけないと思っております。そしてまた、市民全体もやっぱり災害からも、安全安心なまちをつくるためにやらなければならないことを一つずつやっていくということもよく考えていきたい。ようやく再開できるようになったわけですから、まず、とりあえず優先度調査をさせていただいて、そして一番危ないところからやっぱり手を打っていくということになるかと思っております。

○**渋谷佐輔委員長** ここで、鳥谷政一委員が出席されましたことを報告します。

15番、鈴木小市委員。

○**15番 鈴木小市委員** 教育長、今、市長お話しされたとおり、早急にいろいろな、今までもお話し合いをしてきているというような状況じゃないかなというふうに思います。やはり何かの形をつくっていかなきゃならないということは、話だけじゃだめなんですね。やはり優先度調査をしながらというふうなことでありますけれども、市長に申し上げましたとおり、やはり私から言えば5年間のブランクを一気に回復していただきたいなというふうに願って、この一件を終わらせていただきたいと思っております。じゃあ、よろしく願いいたします。

あと2点目は、通告してあります2点目は、スクールバスが民間に委託されるに当たり、今定例会の冒頭にスクールバスの交通事故について専決処分がなされました。これらの話をお聞きいたしますと、大きな事故でなくてよかったなというふうに思っております。でもこのような小さな事故が重なれば大きな事故にもなるよ

うな心配があるというようなことで、管理課長にお尋ねをしたいと思います。

最初に、スクールバスを運転される方の身分ですね、委託された会社の社員になっているのか、嘱託職員になっているのか、その辺ちよっとお聞きしたいと思います。

○**渋谷佐輔委員長** 梅津敏昭管理課長。

○**梅津敏昭管理課長** お答えします。

現在、スクールバスについては、民間委託というような形で株式会社中央タクシーの方に委託しております。今、運転手も7名おりますけども、その方々は中央タクシーの社員というようなことでございます。

○**渋谷佐輔委員長** 15番、鈴木小市委員。

○**15番 鈴木小市委員** そうすれば全員が社員であるというようなことでありますので、その社員の方々に対しまして、安全運転するに当たってのいろいろな指導関係はなされておると思っておりますけども、どのような指導をなされておるのか、聞いておりましたらばお聞きしたいと思います。

○**渋谷佐輔委員長** 梅津敏昭管理課長。

○**梅津敏昭管理課長** 安全運転ということは、安全の管理体制ということでございますが、今確認しておりますのが、先ほど申しあげましたように、現在、スクールバス担当の運転手が7名いらっしゃるということで、その7名のうち総括責任者というのがいらっしゃいまして、あとそれから各6名が南中担当、北中担当というような形で運行を今行ってるということで、毎朝の安全確認の部分でありますけども、やはり毎朝、南中、北中それぞれ1号車から3号車までということで6台あるわけでございますけども、朝の運転前に日常点検実施表というのがございまして、それによってブレーキとかタイヤ、バッテリー、原動機、それから方向指示器、ウインドーウォッシャーなど、11項目にわたっての毎日、車の点検をまずやるということでござい

ます。そして、車の点検と、それから乗務員点検簿というのがございまして、この乗務員点検簿につきましては、総括責任者がそれぞれ運転手の服装、携帯品、健康状態などを確認をしながら、注意事項として、安全運転に関する注意を行って運転業務についているというようなことでございます。

それから、県警本部の方で交通安全ゆとり号というのがございますが、これについては運転適性診断ということで、反応動作の速さとか、適度な精神緊張の維持とか、それから動作の確かさ、注意力の配分、それから状況処理のたくみさなど、さまざまな運転するに当たっての適性要素を診断するというような事業を行ってま

すけども、それなどにも参加をされて、安全運転の方に心がけるというような状況のよう

でございます。

○**渋谷佐輔委員長** 15番、鈴木小市委員。

○**15番 鈴木小市委員** 委託されている会社が中央タクシーさんというようなことでお聞きいたしましたけども、最初はたしか入札でお願いしたような状況をお聞きしておりますけども、今度随意契約になったというようなことをお聞きしておりますが、そのとおりですか。

○**渋谷佐輔委員長** 梅津敏昭管理課長。

○**梅津敏昭管理課長** 今現在、随意契約というような形でやっておりますけども、実は一番最初に、平成16年度にスクールバスを民間委託にするというようなことで、これは南中だけでございましたけども、やろうというようなことで、市内のタクシー業者、プロの運転手、ドライバーがいるというようなことで、中央タクシー、白鷹タクシー、長井交通を指名させていただきました。そのときは予定価格に達した業者がないというようなことで、再入札をしたんですが、再入札しても予定価格を下回る業者がいなかったというようなことで、不調に終わってます。

+

それで、入札が不調になりまして、入札参加者の方から最低価格入札者と協議したらどうだというようなことになりまして、一応指名競争入札というような形で事務手続をとったんですが、結果的には随意契約というような形になっておりまして、現在もちょっと随意契約という形でやっております。

○**渋谷佐輔委員長** 15番、鈴木小市委員。

○**15番 鈴木小市委員** 最初は入札というようなことで、その後は随意契約というようなことですよね。

それで、何で入札から随意契約に移行になったのか。今お話ちょっとお聞きしましたが、もうちょっとその辺お聞きしたいと思います。

○**渋谷佐輔委員長** 梅津敏昭管理課長。

○**梅津敏昭管理課長** 入札から随意契約になぜなかったかということですが、先ほど申し上げましたように、当初、平成16年度に入札をした際に、先ほど申し上げたような状況でございました。そして平成16年度も中央タクシーさんをお願いするというような形になりまして、中央タクシーさんの方では、それからいろいろとスクールバス運行の体制づくりを行っていただいたというようなことがございます。

17年度についても随意契約やったわけですが、この理由といたしましては、やはり市内のプロのドライバーのいらっしゃる会社というようなことで、3社のタクシー会社を指名して、もし入札した場合でも16年度と同じような結果になるのではないかというようなことも懸念されましたし、あと中央タクシーそのものが運行体制が確立されたというようなこともございまして、地方自治法施行令第167条の2第1項第2号ということで、当該契約の性質または目的が競争入札に適さないものというような形で随意契約をさせていただいたところでございます。

○**渋谷佐輔委員長** 15番、鈴木小市委員。

○**15番 鈴木小市委員** なかなか受けてくれるところがないというようなことでは、非常にご苦労なされたなというふうに、こう思っておりますけれども、やはりこのままずっと随意契約随意契約でいくのか、それともある程度の年数たてば入札に切りかえなされる予定もあるのか、その辺ちょっとお尋ねいたします。

○**渋谷佐輔委員長** 梅津敏昭管理課長。

○**梅津敏昭管理課長** 契約の方法で、これからの契約ということですが、今年度については来年の3月末まで契約がなっていると、ただ、来年度以降についてはまだどうするかと決まってるわけではございません。とにかくスクールバスの運行につきましては、児童生徒の命を運ぶというようなことで、安全第一というようなことで考えているわけですが、そういうことから、委託を始めた当初から人を運ぶというような業務をやっているプロのタクシー会社をお願いしたというよう経過もございます。

来年度以降の運行委託につきましては、やっぱり現在以上の安全面でのサービスが期待できるような方法でやっていきたいと考えていますので、今後ちょっと検討させていただきたいと。当然今お願いして中央タクシーの実績なども、その辺も検討しながら今後検討させていただきたいというように思います。

○**渋谷佐輔委員長** 15番、鈴木小市委員。

○**15番 鈴木小市委員** 管理課長の言うとおりでございますけれども、やはりずっと随意契約随意契約でいきますとマンネリ化するんじゃないかなというふうなところに、安全管理体制を怠るような状況になられても困るんじゃないかなというふうなこともありますので、やはり何年かある程度たてば、やっぱり入札をしていただくような方法もある程度必要でないかなというふうには私は考えますけれども、その辺はどうなんですか。

○**渋谷佐輔委員長** 梅津敏昭管理課長。

○**梅津敏昭管理課長** 議員のおっしゃるとおりでございまして、やはり長い間ずっと随契随契でいってしまうと、どうしても気の緩みといいですか、そういうものも出る懸念もあります。そのようなことから、やはり先ほど申し上げましたように、今は単年度単年度契約やっておりますけれども、その辺もやっぱり入札なんかも含めて検討していきたいというふうに思います。

○**渋谷佐輔委員長** 15番、鈴木小市委員。

○**15番 鈴木小市委員** そのようにひとつ今後考えていただきたいというふうに思います。

そして、スクールバスが民間委託になってから、やはりいろいろご父兄の方々、学校当局の方々にお聞きいたしますと、非常に事務手続とかなんかについて、学校事務関係の方でありますと学校事務に専念ができるというふうなこととか、あと父兄の方のお話をお聞きしますと、やはり部活で例えば練習試合に行くときなんか、いろいろご配慮していただいておりますけれども、今までよりも父兄の負担が多くなってるというようなお話もありますので、この辺もうちょっと父兄の負担が少なくなるような方法というようなことは考えられますか、考えられませんか、その辺ちょっとお聞きしたいと思います。

○**渋谷佐輔委員長** 梅津敏昭管理課長。

○**梅津敏昭管理課長** 父兄の負担の軽減ということでございますが、管理課といたしましてもできるだけ予算の範囲内で父兄の方が負担にならないようにというふうなことで考えておりますけれども、ただ最近、結構遠征とかが非常にちょっと多くなってるというふうなことで、やっぱり遠征しますとどうしても安全面でちょっと心配されますし、県内の遠征については南北中学校それぞれ10回までというふうなことをしながらやってるわけでございますけれども、それを超える部分についてはご父兄の負担にちょっとお聞きしたいということで今やっているところで

ございます。

○**渋谷佐輔委員長** 15番、鈴木小市委員。

○**15番 鈴木小市委員** その辺は少しでも、練習試合関係に行くときなんかもうちょっと配慮していただくような方法をとっていただくようお願いするしかないと思うんですけども、今後、そういうふうなご父兄の話もありますので、ひとつよろしくお聞きしたいなと思います。

それで、管理課といたしましては、この委託先について、ただ私は投げっ放しじゃないというふうに思いますけれども、その辺のところどのような管理体制を行っているのかお聞きしたいなというふうに思いますけれども。

○**渋谷佐輔委員長** 梅津敏昭管理課長。

○**梅津敏昭管理課長** 管理課としての安全確認等々であります。毎月1カ月間の日誌を私どもの方に持ってきていただきます。それぞれの運転した方々、要するに車の数ですから6つ、南中の1号車から3号車、それから北中の1号車から3号車という形で、6冊の日誌を持ってきてもらって、それを全部ちょっと確認、チェックしております。そしてもし何かあった場合はその都度、やっぱり安全管理ということで、交通安全というふうなことで、社長さんなり事務の方に一応話をしております。

○**渋谷佐輔委員長** 15番、鈴木小市委員。

○**15番 鈴木小市委員** そうしますと、会社の方から提出される資料を管理するだけじゃなくて、運転手の運転素行の日誌なども管理しているというふうなことにとらえていいのかな、その辺ちょっとお聞きしたいと思います。

○**渋谷佐輔委員長** 梅津敏昭管理課長。

○**梅津敏昭管理課長** その運転日誌につきましては、私どもの方で管理をするというよりも確認をするというふうな形で、とにかくきょうは何時から何時までどこに行きましたというふうなを全部、それをちょっと確認させていただくというふうなことでございます。実際の管理は会

+

社の方で保管をしてるというようなことです。

○**渋谷佐輔委員長** 15番、鈴木小市委員。

○**15番 鈴木小市委員** なかなかやはり管理、確認と申しますか、大変じゃないかなというふうに思いますけども、やはりせっかく民間に委託したというようなことでありまして、両方とも、両者ともある程度よかったなというような形にならなければならないんじゃないかなというふうに私思いますので、その辺、今後、両者がよく話し合われて、うまく持って行ってほしいというふうに思います。

その中でも、やはり交通安全というのが一番大事なことじゃないかなというふうに思いますので、やはり運転手の採用か何か全部民間の方々、中央タクシーさんにお任せ、中央タクシーが採用するわけでありまして、やはり私もいろいろ運転される方々お話を聞いたり、見てみますと、事故を起こされる方は必ず何回か事故を起こすんですね、統計とってみますと。あとやはり事故を起こさない方は事故を起こさない状況で運転されているというのが、私の個人の調査によりましてそういう結果が出ておるんです。

それで、採用するときに、免許証もやはり契約のと通りの免許証で採用されていると思えますけども、やっぱり違反とか事故等を、その辺も十二分に慎重にされまして採用されれば交通事故もなくなるのではないかなというふうに思いますので、その辺を十二分に配慮して、今後、安全指導関係でお話しされる場合、その辺もちょっとお話しされればいいのじゃないかなというふうに思っておりますので、どうかひとつこの件を、お互いに交通安全というのは大事ですから、その辺をお互いにお話しされまして、今後とも事故のないようにうまくいきますように願って、質問を終わりたいと思います。どうもありがとうございました。

## 佐々木謙二委員の総括質疑

○**渋谷佐輔委員長** 次に、順位2番、議席番号5番、佐々木謙二委員。

○**5番 佐々木謙二委員** おはようございます。目黒市長とは私も何回か議論をさせていただきましたけども、今回の質問が最後になるのかなと思って、そんな思いでいるところでございますが、通告しております2点につきまして順次質問させていただきたいなというふうに思っております。

ただいま鈴木小市委員の方から耐震調査の関係で質疑がなされたわけでありまして、私はころっと変わって財政再建道半ばではないかという認識のもとに通告もしていますので、その辺もご理解いただきながらご答弁よろしくお願ひ申し上げたいと思います。

今、やはり言葉のように「プライマリーバランスの黒字化を目指す」と、このように言われておるわけでありまして、国は「2011年をめどに黒字化をしたい」、また、県におきましても中期展望の中で「プライマリーバランスの黒字化を目指していきたい」と、こう言われております。

このプライマリーバランス何ぞやということになるわけですが、これは基礎的財政の収支の黒字化と、一口に言いますとそうなりますが、少し具体的に申し上げますと、全体の歳入から借入額を差し引いた額、それから全体の歳出から公債費負担を除いた額、これの収支の黒字化を目指す、こう言われているわけですが、黒字になれば公債費の元金に償還できると、新聞報道ではそのように言われておりますが、じゃあどうなのかということで、これまで平市政から目黒市政までの、平成3年から16年までの決算で見ますと、全く黒字になっており